

平成22年度事業報告

1、概要

全国巡回展「奈良の古寺と仏像 會津八一のうたのせて」が新潟、東京、奈良の3カ所で開催した。平城遷都1300年記念に會津八一の学芸を復興（ルネサンス）させるという100年に1回の好機となった。新潟では、新潟展実行委員会の構成団体として当記念館が企画推進し、開催目前の会場変更という異常事態を乗り越えて4月24日～6月6日まで、県立近代美術館（長岡市）会場に130,523人という入場者を集め、当館開館35周年を飾るにふさわしく本県展覧会史上に記録的成果を残した。

この期間中、ご本尊を出陳された中宮寺の日野西光尊門跡と神林恒道館長による講演会等を長岡市、佐渡市、新潟市で開催し、ご門跡の色紙即売会も行い、販売収入30万円は当館に寄付を頂いた。仏像展関連では神林恒道館長10回、喜嶋、湯浅両学芸員が各1回の講演活動を展開した。

当館の展示部門は、春は仏像展関連展「生涯の業績をたどる」を同期間開催し、入場者数2,439人だった。主会場と離れたこと、共通券を出さなかったこともあり、期待値には届かなかった。

夏の企画展は「私が選んだ八一の書（著名人編）」で、当館で講演して頂いた文化人アンケートで最も好きな八一作品を選出し紹介。秋の特別展「會津八一 人生の書～手紙で読む生涯と交友」では八一の生涯や関係者との交流を、書簡などから紹介。目玉は彫刻家奥田勝に送った15m84cmの折帖「與奥田勝書」を長大の展示台を新設し、展示した。会期中の9月26日、高円宮妃久子さまが視察に訪れたが、全体の入館者数は2,216人。冬の企画展「題字の美 八一のブックワールド～併設 第4回写真コンテスト入賞入選作品～」も横ばい。年間入館者は7,064人（前年6,987人、1.4%増）と微増に留まった。

文芸講演会と学習講座は活発に展開し、主催（共催も含む）では15回開催、聴講者数は延べ2,996人。出前講座など他団体主催の講演会は21回、延べ総聴講者数は1,943人。主催と出前を合わせて、神林館長の講演は20回、喜嶋学芸員8回、湯浅学芸員5回と総計33回にのぼった。他団体からの講演要請の増加が21、22年度と増加傾向が続いている。

イベントでは「會津八一の歌を映す」第4回秋草道人賞写真コンテストを実施、授賞式・講評会を開催した。同コンテストでは引き続き共催5、協賛2、協力5の12団体から金銭や物品の支援を受けた。

2、事業の内容

（ア）展覧会事業 常設展（経費1,261,456円）=前年度1,400,215円比 10.1%減

特別展（経費3,134,103円）=前年度3,323,142円比 5.7%減

	21年度 入館者数	21年度 開催日 数	22年度 入館者数	22年度 開催日数	22年度 入館累計
4月	438	24	303	7	303
5月	983	27	1430	28	1733
6月	676	24	1082	10	2814
7月	874	25	513	27	3327
8月	586	26	493	26	3820
9月	854	23	740	23	4560
10月	1027	27	640	27	5200
11月	635	26	929	20	6129
12月	70	8	174	8	6303
1月	285	24	249	24	6552
2月	202	23	323	24	6875
3月	357	24	189	24	7064
合計	6987	281	7064	254	

22年度観覧料収入2,506,800円（前年度2,361,440円比6.1%増）

うち仏像展収入 822,660円→仏像展実行委員会へ納入

（特別展）

會津八一記念館開館 35 周年記念 會津八一 人生の書「手紙で読む生涯と交友」
（平成 22 年 9 月 11 日～11 月 23 日 開催日数 65 日間）

記念館開館 35 周年を記念して、會津八一の生涯や関係者との交流を、書簡などから紹介。八一は書簡家として知られ、書簡は卒意の書（意識せず、自由に書かれた書）として現代の書家からも評価されているため、美術作品と資料の両面の観点から展示した。彫刻家奥田勝に送った 15m84 cm の折帖「與奥田勝書」をはじめ、早稲田大学の同僚、窪田空穂、吉江孤雁、日夏耿之介などへ宛てた書簡。また、没後 60 年の相馬御風にちなんで八一との交流を「良寛」をテーマに紹介した。会期中の 9 月 26 日、高円宮妃久子さまが視察に訪れた。また、俳優・寺田農氏、日本絵手紙協会会長・小池邦夫氏の講演会が開催された。

比較的地味な「手紙」をいかに紹介するかが問題だったが、「與奥田勝書」の展示のために約 9m の特設台を設置した。土、日曜日の解説会はたくさんの長文の書簡を要約して紹介したため、展示全体の把握の手助けとなり好評だった。文章量が多かったこともあり、鑑賞者の滞留時間が長かった。
入館者数 2, 216 人（前年度「會津八一と越の学び舎」2, 198 人）

（共催企画展）

①平城遷都 1300 年記念 奈良の古寺と仏像・會津八一のうたにのせて～生涯と業績をたどる～
（平成 22 年 4 月 24 日～6 月 6 日 開催日数 41 日間）

仏像展実行委員会や日本経済新聞と共催し、県立近代美術館との連携展示。會津八一の名品や奈良関連作品を展示し、生涯や業績を紹介した。また最も交流のあった東大寺と八一の特設コーナーでは東大寺塔頭・観音院元住職上司海雲へ贈った八一の書作品や両者の往復書簡も陳列した。

県立近代美術館（長岡市）への会場変更にともない、新潟市美術館との連携展示が出来ず、目標人数より大幅に減少した。しかし、会期後半は、中宮寺本尊・菩薩半跏像が長岡会場で出陳された効果か、団体客の来館者が増加した。とりわけ女性の入館者率が高かった。
入館者数 2, 439 人（前年度「街の中の會津八一 第 2 弾」2, 097 人）

（企画展）

②會津八一記念館開館 35 周年 私が選んだ八一の書（著名人編）
（平成 22 年 6 月 25 日～9 月 5 日 開催日数 65 日間）

記念館収蔵品の中から写真家・歌人・俳人・文芸評論家・研究者・茶道家・奈良京都の僧侶など、過去に当館で講演して頂いた文化人をアンケートで集計。最も好きな八一作品を選出し展示した。その際、作品に対する思いやエピソードも併せて紹介した。

夏の企画ということもあり入館者数は伸びなかったが、初めての来館者、県外からの来館者が多く、「奈良の古寺と仏像」展（東京展が開催中）、NHK 日曜美術館の放映などの影響が大きかったと考えられる。著名人の視点が面白いうえ、展示の満足度が高く、評判が良かった。
入館者数 1, 474 人（前年度「濱谷浩 會津八一博士を写す」1, 777 人）

③題字の美 八一のブックワールド ～併設 第 4 回写真コンテスト入賞入選作品～
（平成 22 年 12 月 14 日～平成 23 年 3 月 27 日 開催日数 78 日間）

書物の表紙につけられた八一の題字資料を一堂に展示。板画家棟方志功と合作した歌誌の表紙「新潟短歌」、友人知人の著書や雑誌に八一が揮毫した書籍などを紹介。同時開催で第 4 回秋草道人賞写真コンテストの入賞入選作品 26 点も展示した。期間中「まちなかの文学を歩く」連絡協議会による、文学まち歩きツアー実施の影響で、2 月の入館者数が前年より 100 人ほど増加。しかし、3 月は東日本大震災のため、入館者が途絶える日が続いた。

入館者数 935 人（前年度「新収蔵品展」893 人）

(主な来館者) ※当館理事、評議員は除く

- ・ 4 月 = 鷲塚泰光奈良国立博物館前館長、小川光三飛鳥園社長 (22 日) 東大寺上野道善管長、薬師寺村上太胤執事長、法隆寺大野玄妙管長、中宮寺日野西光尊門跡、元興寺辻村泰善住職、室生寺佐伯良海秘書、斑鳩町長夫人小城恵美女史 (24 日) 新潟市歴史博物館小林昌二館長 (30 日)
- ・ 5 月 = 加藤種男アサヒビール文化財団事務局長、水野敬三郎新潟県立近代美術館前館長 (9 日)、東京学館高校 (14 日)、ドイツ大使館参事官ベルベート氏、新潟ドイツ文化協会上田事務局長 (20 日)、東大寺上院院主筒井寛昭師、同寺財務執事平岡昇修師 (22 日) 中宮寺・岡本明潤師 (25 日)、郷土史家山本修巳氏 (28 日)、女子美大稲木吉一教授、面出和子教授、彫刻家故関口昌孝氏の娘関口智子氏 (30 日) 「大杉屋」宮越光昭社長、上越美術協会池田稔会長、上越市立総合博物館中島浩館長 (31 日)
- ・ 6 月 = 唐招提寺石田太一夫妻 (1 日)、日経杉田亮毅会長夫妻、相国寺・有馬頼底管長、奈良大学浅田隆名誉教授、福島県団体、東京鹿鳴会 (2 日)、東大寺北河原公敬別当、新大橋本教授 (4 日)、長野・吉池泰夫氏 (5 日)、山梨県書道団体 (6 日)、三井記念美術館清水学芸員、奈良県立美術館赤川学芸員 (9 日)、新潟医療福祉大学生 (19 日)、糸魚川市谷村建設技術安全協議会 (20 日)、東京・府中統合短歌会 (23 日)、東京都美術館真室佳武氏、元NHK新潟放送局長佐藤公臣氏 (26 日)
- ・ 7 月 = 東洋文化研究者アレックス・カー氏 (13 日) 今成家一族・今成卓而氏 (10 日)、見附市まちづくり団体 (14 日)、都タクシー運転手研修 (21 日) 新潟高校書道部 (28 日)
- ・ 8 月 = 相国寺有馬管長 (3 日)、亀田中学校美術部 (8 日)、篆刻家阿部一皋氏 (11 日)、トミオカホワイト美術館長谷部昇館長 (15 日) 大阪市立東洋陶磁美術館出川哲朗館長 (21 日) 国学院大学杉山英明准教授、塩原文学研究会 (22 日)
- ・ 9 月 = 胎内郷土研究会、豊栄中高年大学 (11 日)、燕市分水良寛会 (15 日)、棟方板画美術館石井頼子学芸員、梨花女子大学校金順姫教授 (18 日)、ブリューゲル研究家森洋子氏、ルヴァン大学ヴァンドッワラ教授 (19 日)、歌人来嶋靖生氏 (24 日)、高円宮妃殿下、篠田市長 (26 日) 新潟商工会議所の団体 (28 日)、糸魚川・奴奈川福祉会 (29 日)、筑波大学図書館職員 (30 日)
- ・ 10 月 = 糸魚川西海公民館 (1 日)、歌人松山ちよ氏の子息松山康國氏 (6 日)、俳優寺田農氏、実姉三富夏芽氏 (12 日)、長岡・西楽寺春日浩三郎住職 (13 日) 宮内コミュニティ・センター (15 日) 江戸千家川上宗雪家元、新潟交通元社長夫人中野順子氏、コメリ捧賢一会長 (17 日) 郡山市団体 (21 日) 千葉県・書道団体岱星会 (24 日)、トミオカホワイト美術館高石学芸員 (30 日)
- ・ 11 月 = 福島県商工会議所連合会瀬谷俊雄会長、大堀義之東邦銀行新潟支店長 (4 日)、相馬御風研究家金子善八郎氏、絵手紙作家小池邦夫氏 (5 日)、新潟大学書道科 (6, 21 日) 見附市書道サークル (9 日)、部落解放同盟中央本部・片岡中央執行委員 (10 日) 渡辺湖畔の甥渡辺和一郎夫妻 (11 日)、辰巳館会長 (12 日)、書体デザイナー小林章氏 (13 日)、金沢・北方心泉漢詩研究会 (14 日)、飯田市美術館織田学芸員 (17 日)、文芸評論家喜多上氏 (21 日) 良寛ゆかりの分水町島崎木村家当主 (22 日) 小さな栗の木美術館桜井佐七氏と家族 (23 日)
- ・ 12 月 = 中央公論社元秘書室長前田良和氏 (2 日)、エッセイスト中田紀子氏 (11 日)、春日井市道風記念館落合哲館長、鈴川宏美学芸員 (17 日)、書壇院役員 (18 日)、中宮寺日野西光尊門跡、秋山妙蓮氏 (24 日)、新潟短歌主宰・鈴木まさ枝氏 (25 日)
- ・ 2011 年 1 月 = ビュー福島潟近藤敬館長 (25 日)、写真家浅井慎平氏、奈良薄田東仙一門篆刻の会 (29 日)
- ・ 2 月 = 西大畑を歩く会 (1 日) 県立文書館本井晴信副館長 (5 日)、県書道協会理事長今井昭友氏 (13 日)、南魚沼市池田記念美術館佐藤吉昭館長と職員 (16 日)、沖縄県立芸術大学小林純子准教授 (23 日)

(展示等に対する評価) = 入館者アンケート結果 (+ = 好評、- = 不評)

回答者数 788 人 (回答率 11.2%)

展覧会名	作品解説の評価	展示量の評価	全体的評価
生涯と業績をたどる	+84% -14%	+81% -15%	+93% 普通 6%
私が選んだ會津八一	+89% -9%	+83% -15%	+94% 普通 5%
人生の書	+84% -13%	+81% -16%	+95% 普通 4%
題字の美	+86% -13%	+81% -17%	+96% 普通 3%

(接客に対する評価) = 入館者アンケート結果 回答者数 255 人 (回答率 3.6%)

・良い 73% ・普通 23% ・悪い or 未回答 4%

(イ) 講演会事業

①八一祭記念講演会 (有料 500 円)

テーマ「會津八一と禅語」

講師 有馬頼底氏 (臨濟宗相国寺派管長)

日時 8 月 3 日 (火) 午後 2 時～3 時 30 分

会場 りゅーとびあ 能楽堂

聴講者 240 人

②特別展関連第 1 回文芸講演会 (有料 500 円)

テーマ「表現すること」

講師 寺田農氏 (俳優)

日時 10 月 11 日 (月祝) 午後 3 時～4 時 30 分

会場 新潟市民プラザ (NEXT 2 1 ビル 6 階)

聴講者 318 人

③特別展関連第 2 回文芸講演会 (有料 500 円)

テーマ「會津八一と手紙」

講師 小池邦夫氏 (絵手紙作家)

日時 11 月 5 日 (金) 午後 2 時～1 5 時 30 分

会場 りゅーとびあ 能楽堂 (新潟市民芸術文化会館内)

聴講者 190 人

(ウ) 普及活動事業 参加者負担

①新潟日報カルチャースクール 講師：神林恒道館長

会場：チサンホテル (第 1、2 回) 音楽文化会館 (第 3 回)

・第 1 回 4 月 17 日 (土) 「法隆寺再建の謎」

聴講者 311 人

・第 2 回 5 月 15 日 (土) 「東大寺と奈良の仏たち」

305 人

・第 3 回 6 月 5 日 (土) 「大仏炎上と鎌倉彫刻」

280 人

・上越会場：4 月 18 日 (日) 「東洋の眼 西洋の眼」 (文化会館)

56 人

②仏像展関連事業 (神林恒道館長担当)

・4 月 25 日 (日) シンポジウム「こころの時代」主催：「奈良の古寺と仏像」実行委員会

基調講演「歌とつなぐ仏のこころ - 會津八一と奈良歌 -」 (ホテルイタリア軒) 460 人

・5 月 2 日 (日) 講演「やさしい仏像の見方」

主催：「奈良の古寺と仏像」実行委員会

会場：新潟県立近代美術館講堂 155 人

・5 月 29 日 (土) 対談「いつくしみの心」

主催：「奈良の古寺と仏像」実行委員会

中宮寺日野西光尊門跡

会場：長岡グランドホテル 148 人

・5 月 30 日 (日) 鼎談「佐渡と中宮寺の縁」

主催：佐渡市、佐渡市教育委員会

中宮寺日野西門跡と山本修巳氏

会場：佐渡・金井能楽堂

150 人

- ・ 6 月 1 日（火）講演「やさしい仏像の見方」 主催：日報趣味の会
会場：新潟県立近代美術館講堂 130人
- ・ 7 月 10 日（土）講演「會津八一の心の旅 - 『奈良の古寺と仏像』展によせて - 」
主催：財団法人ならまち振興財団 会場：日本橋三越 約50人

（学芸員担当）

- ・ 5 月 9 日（日）鼎談「會津八一のまなざし - 奈良・そしてふるさと新潟への思い」
篠田昭新潟市長、加藤種男アサヒビール芸術文化財団事務局長、喜嶋学芸員
主催：新潟市 会場：市民プラザ（NEXT21） 100人
- ・ 5 月 15 日（日）講演「仏像を撮るといふこと - 晴暘と光三のまなざし」小川光三氏、湯浅学芸員
主催・会場：新潟市美術館 103人

③他の団体主催による出前講演・出前講座

- ・ 4 月 21 日（水）講演「會津八一と越後の文人」 主催：新潟愛郷会 講師：神林館長 40人
- ・ 4 月 28 日（水）講演「奈良の古寺と仏像」展について
主催：南ロータリークラブ 会場：オークラホテル 講師：喜嶋学芸員 50人
- ・ 5 月 16 日（日）講演「會津八一と奈良の仏たち」
主催、会場：見附市中央公民館 講師：神林館長 66人
- ・ 5 月 25 日（火）出前講座「八一の魅力」
主催：Lの会 会場：クロスパルにいがた 講師：喜嶋学芸員 26人
- ・ 5 月 28 日（金）出前講座「會津八一をめぐる人々」
主催、会場：鳥屋野公民館 講師：湯浅学芸員 70人
- ・ 6 月 13 日（日）講演「落谷虹児」
主催：落谷虹児記念館 会場：新発田市民会館 講師：神林館長 100人
- ・ 7 月 3 日（土）講演「八一と御風」
主催：糸魚川市相馬御風記念館 会場：糸魚川市役所 講師：湯浅学芸員 70人
- ・ 7 月 31 日（土）講演「美術教育の目指すもの」
主催：美術教師の会 会場：新潟県立近代美術館講堂 講師：神林館長 60人
- ・ 8 月 25 日（水）出前講座「會津八一について」
主催：亀田福寿大学 会場：亀田公民館 講師：喜嶋学芸員 71人
- ・ 9 月 18 日（土）出前講座「新潟が生んだ偉人 會津八一に学ぶ」
主催：市内小中学校日本語教育分科会 会場：南万代小学校 講師：喜嶋学芸員 15人
- ・ 10 月 28 日（木）講演「新潟の文化」
主催：私立大学連盟 会場：ホテルオークラ 講師：神林館長 550人
- ・ 10 月 30 日（土）講演「會津八一と宮城道雄」
主催：宮城会 会場：宮城道雄記念館 講師：喜嶋学芸員 50人
- ・ 11 月 3 日（水）講演「富岡惣一郎白の美」
主催、会場：トミオカホワイト美術館 講師：神林館長 80人
- ・ 11 月 6 日（土）鼎談「越佐 医学・文人の記憶」
主催：新潟日报社 会場：新潟国際情報大学 講師：神林館長 150人
- ・ 12 月 18 日（土）講演「文化人としての大倉喜八郎」
主催：大倉喜八郎の会 会場：新発田市生涯学習センター 講師：神林館長 170人
- ・ 12 月 22 日（木）出前授業「會津八一の生涯と手紙の魅力」
主催、会場：新潟江南高校 講師：喜嶋学芸員 47人
- ・ 23 年 1 月 7 日（金）講演「棟方志功と會津八一 ～越後の人々との交流～」講師：喜嶋学芸員 80人
主催：新潟日报社 会場：伊勢丹アートホール
- ・ 23 年 1 月 28 日（金）講演「にいがた文化の記憶」
主催：藍の会 会場：一ツ 講師：神林館長 35人
- ・ 23 年 2 月 12 日（土）解説「まちなかの文学を歩く」文学まち歩きツアー 講師：湯浅学芸員 3人

主催：「まちなかの文学を歩く」協議会

・23年2月26日（土）解説「まちなかの文学を歩く」文学まち歩きツアー 講師：湯浅学芸員10人

主催：「まちなかの文学を歩く」協議会

（巡回展、関連展覧会）

①「奈良の古寺と仏像 - 會津八一のうたにのせて」巡回展

新潟展：4月24日（土）～6月6日（日）	新潟県立近代美術館	収蔵品 9点貸出
東京展：7月7日（水）～9月20日（月祝）	三井記念美術館	収蔵品12点貸出
奈良展：11月20日（土）～12月19日（日）	奈良県立美術館	収蔵品34点貸出

②「會津八一と小川晴暘」

4月24日（土）～6月6日（日）	新潟市美術館	収蔵品10点貸出
------------------	--------	----------

③「會津八一と南浜分館10年間の記憶展」

3月20日（土）～6月20日（日）	北方文化博物館新潟分館	収蔵品 1点貸出
-------------------	-------------	----------

④「北海道立近代美術館所蔵 片岡球子と日本画の巨匠たち」

23年1月2日～17日	新潟市美術館	収蔵品 1点貸出
-------------	--------	----------

⑤第3回秋艸道人賞写真コンテスト入賞入選作品 巡回展

奈良展：9月1日（水）～12日（日）	奈良県立図書情報館	写真26点貸出
新潟展：10月14日（木）～17日（日）	胎内市産業文化会館	写真26点貸出

（参考関連展）

①「會津八一コレクションの近世書画展」

11月5日（金）～11月30日（火）	早稲田大学會津八一記念博物館
--------------------	----------------

②「會津八一と奈良の写真家 - 工藤利三郎・小川晴暘・入江泰吉 - 」

11月20日（土）～12月23日（木祝）	奈良市写真美術館
----------------------	----------

③「新宿中村屋に咲いた文化芸術」

23年2月19日（土）～4月10日（日）	新宿区立新宿歴史博物館
----------------------	-------------

（エ）学習講座（参加者負担）

・會津八一の歌を読む会 講師：若月忠信氏（文芸評論家）砂丘館 毎月第1土曜日 受講者19人

（オ）イベント

①「會津八一の歌を映す」第4回秋艸道人賞写真コンテスト（総事業費2,320,620円）

- ・公募期間 4月から11月12日（作品搬入11月5日～12日）
- ・応募点数 63点
- ・応募人数 45人（県内17人 県外28人）
- ・審査委員 浅井慎平（委員長）、大橋一章、小川光三、和泉久子、神林恒道の5氏
- ・審査会 12月5日 14時～17時 ホテルオークラ
- ・審査結果 秋艸道人賞に新潟市江南区の栗原昭作さん
奨励賞5人は県内1人、奈良県3人、兵庫県1人
入選は15人（県内5、奈良3、石川、岡山、埼玉、神奈川、東京、大阪、福島各1）
- ・記者発表 12月6日（月）午前10時30分 新潟県政記者クラブ：浅井委員長、神林館長、武藤事務長
- ・授賞式・作品講評会＝審査委員と受賞者の対話方式（入場無料）
23年1月29日（土）午後2時～4時 クロスパルにいがた映像ホール 参加人数90人
- ・祝賀会 23年1月29日（土）午後5時～6時30分 ホテルオークラ 参加人数48人

②奈良中宮寺歌碑除幕式 11 月 29 日（土） 同歌碑建立の会事務局を担当

・式典	中宮寺境内	午後 1 時～3 時	参加人数 280 人
・祝宴	聖徳会館	午後 4 時～午後 6 時	参加人数 150 人
・宗次郎コンサート	いかるがホール	午後 7 時～8 時 30 分	参加人数 750 人
・歌碑建立寄進者数	767 人		

③新潟日報文化賞受賞・神林館長「にいがた文化の記憶」出版を祝う会（館長夫妻・職員招待される）
23 年 1 月 16 日（日）ホテルイタリア軒 事務局に参加 参加人数 200 人
神林館長記念講演「酒と日本文化あるいは新潟の文化」

（カ）鑑定会（経費 255,552 円）

春の部	5 月 16 日（日）総点数 16 点	認定数 11 点	収入 490,000 円	
秋の部	11 月 7 日（日）総点数 15 点	認定数 13 点	収入 540,000 円	合計 1,030,000 円

（キ）旅行企画（参加者負担）

- ①「會津八一と上州・信濃路」の旅 1 泊 2 日
6 月 16 日（水）～6 月 17 日（木） 喜嶋学芸員同行解説
- ② 喜光寺の會津八一歌碑除幕式と正倉院展の旅 3 日間
10 月 30 日（土）～11 月 1 日（月） 浅田隆・奈良大学名誉教授が同行解説
- ③ 中宮寺の會津八一歌碑除幕式と奈良の名刹・八一歌碑めぐり 4 日間
11 月 28 日（日）～12 月 1 日（水） 浅田隆・奈良大学名誉教授が同行解説

（ク）新収蔵品

- 寄贈 60 点（評価額 929 万円）
- 會津八一書簡 松山ちよ宛 7 通
 - 高島コレクション 中国明器・瓦当 50 点
 - 會津八一歌碑拓本「喜光寺歌碑・ひとりきて」及び碑陰 2 点
 - 會津八一歌碑拓本「中宮寺歌碑・みほとけの」1 点

（ケ）販売活動

- ・「学規」割引セール 実施期間 22 年度（22 年 2-5 月、23 年 2-3 月）
額装 21 点 未表装 6 点 色紙 60 点 販売合計 442,000 円

（コ）広報活動

- ①新聞（新潟日報）
 - ・仏像展関連 記事 61 回 広告 約 100 回
 - ・その他 記事 21 回 広告 43 回（展示など 28 回 複製販売 15 回）

②テレビ、ラジオ（BSN 新潟放送）

- ・テレビ＝CM 168 本、 ニュース 4 回
- ・ラジオ＝CM 221 本、 生出演 1 回
- ・ホームページ バナー広告

③市報にいがた

- ・展覧会、講演募集 17 回

（八一関連放送）

- ・NHK 総合、大津 かんさい思い出シアター 新日本紀行「古都宿帳」（昭和 52 年 11 月 14 日）
放送日：22 年 2 月 13 日

- ・ NHK教育 日曜美術館「広目天のまなざし 會津八一の愛した奈良の仏」
放送日：22 年 7 月 18、25 日 8 月 8、15 日
- ・ NHK教育 NHK短歌「うた人のことば～會津八一～」
放送日：23 年 3 月 6、9、13、16、20、23、27、30 日

(サ) 学校団体見学

- ・ 5 月 14 日 東京学館新潟高校 41 人
- ・ 6 月 19 日 新潟医療福祉大学 140 人
- ・ 7 月 28 日 新潟高校書道部 21 人
- ・ 8 月 8 日 新潟市亀田中学校美術部 28 人
- ・ 10 月 26 日 新潟市寄居中学校 11 人
- ・ 11 月 6 日、21 日 新潟大学書道科 31 人
- ・ 11 月 9 日 新潟市木戸中学校 7 人